

# 元 気 の 源 通 信

目標設計・人事労務・社会保険事務手続き・助成金

社会保険労務士 深川順次

福岡市東区香椎4-11-17-201

TEL 092-661-0552

(今月の言葉)

- ① ゴー・アヘッド (つねに前進)
- ② 人生は自分自身との戦いである
- ③ ただいま100歳、今からでも遅くはない (『ただいま100歳』しいのみ学園昇地園長著)

2005年4月号 (第38号)

地震見舞い申し上げます。

地震の後片付けに忙殺された事業所様、3月決算、年度末の仕事や新年度の入札などでハードなスケジュールをやり繰りされた事業所様、新入社員を多く受け入れられた事業所様、みなさまお疲れ様でした。

新年度です。心機一転「ゴー・アヘッド」(前進)。まだまだ余震が続いています。大地震に負けず、「がんばろう 福岡」で行きたいと思います。

## ゴー・アヘッド (つねに前進)

100歳になってもゴー・アヘッド (つねに前進)。挑戦を続けている方がいます。「しいのみ学園」の昇地園長です。私が昇地園長を知ったのは、昨年行われたNHKスペシャル番組「老いに挑む」でした。障害児教育が未開拓な中国に障害児施設をつくりたい。障害児たちに学校教育を受ける喜びを伝えたい。若い先生たちに障害児教育に携わってもらいたい。90歳を超えて一から中国語を勉強され、若い先生や学生たちを前にして中国語で講演されている姿に圧倒され感動しました。科学的に分析した結果、昇地先生の脳年齢はなんと30歳台だそうです。

まだ日本でも障害児教育が全くかえりみられなかった昭和29年に「しいのみ学園」(福岡市南区井尻)を設立。30数年前から韓国に。そして現在も日本全国に講演に出かけたり、中国全土に養護学級「しいのみクラス」を広めるために活躍しておられます。

## 禍転じて福となす (苦しみを踏みつけてその上で踊る)

昇地先生の人生はこの言葉に体現されているのかもしれませんが。3人のお子さんの内、2人が脳性まひに。長男の有道さん(S11年生まれ)は友人に恵まれ小学校をなんとか卒業しましたが中学校では更にひどいイジメにあい自主退学に追い込まれます。そして次男の照彦さん(S22年生まれ)までもが脳性小児まひになったとき、長男の時よりも更に辛く悩み苦しんだといいます。

「一家心中すればこういう辛い想いをしなくて済む。町なかに住むより無人島に行けば、このように人様からさげすみの眼差しで見られることはない。自然死していくのが生きる道ではなかろうか」と考えた時もあったといいます。

結局次男の照彦さんは就学猶予のまま小学校に上らずじまい。兄弟は学校に通う子供達を見て「自分達は学校に行けない」と抱き合って泣いている。長男の有道さんはひどいイジメにあったにもかかわらず、次男の照彦さんに「学校は楽しいところだ」と教えている。そして昇地さんに「自分は学校に行ったので、今度は照彦ちゃんを学校に行かせてやってください」と頼んだといいます。

「イジメのない学校を作ろう」奥さん（露子さん）の一言で一大決心をします。奥さんは親族の猛反対の中、昇知家（奥さん方の姓で実際は昇地と書く）の全財産を投げ打って「しいのみ学園」建設の資金を工面しました。「美しい心さえあればいい。お金はいらぬ」学園建設のために必死になって支えてくれた奥さんの一言は昇知先生をおおいに奮起させました。

昇地先生は奥さんからたくさん学んでいます。

**「自分の子供は死なせても、預かったお子さんは死なせられないのよ」**

重度障害児を半数は寮生として預かっていました。風邪が蔓延したときです。寝込まなかったのは奥さんだけ。まさに獅子奮迅の活躍です。そのとき何気なく言った奥さんの一言に教育者としての責任を痛感したといえます。

**「先生は辞められても、母親は辞められないのよ」**

いわゆる問題児がいました。みんなにすぐかみつく。普通の学校に通ったことがあるのでイジメかたもしている。着任してから2ヶ月の間に50回以上もかまれた女性の先生がついに「哲ちゃんを辞めさせるか、私を辞めさせるか、どちらかしてください」と奥さんに嘆願します。そのときの奥さんの言葉です。「先生はいいですね。すぐ辞められますから。しかし母親はやめられないのよ」この言葉に打たれた田中先生は「もっと愛情を持ってかかわろう」と思い直しました。

**「人様の知らない幸せを感じています」**

奥さんがテレビにでて「障害児のお母さんとしてどう感じますか」と聞かれた時の言葉です。この言葉にも昇知先生はすごく感動したといえます。

まさにこの奥さん有りて、今の昇知先生、「しいのみ学園」が在るような気がします。昇知先生は子供達からも多くのことを学んでいます。「子供が教科書、教育の方法は子供達が教えてくれる。子供に付いて行けばそこから教育が生まれてくる」と。これが教育の原点ではないでしょうか。

## 人生とは自分自身との戦いである

100歳になっても挑戦です。昇知先生は平成14年（96歳の時）に中国の長春大学から名誉教授として招かれました。中国には特殊学級が1校もない。障害児は放置され家の中で泣いている。それに驚きかつ強い使命感がわき起こったといえます。韓国の次は中国。「しいのみは小さいけれど、だんだん大木になる。中国全土に特殊学級の普及を」これが昇知先生100歳の使命です。（昨年10月には中国で初めて本格的な養護学校「しいのみクラス」が開校しました）

アメリカに行けば英語でスピーチ。ドイツに行けばドイツ語で。韓国では通訳なしで韓国語で話される。そして現在中国語を毎日勉強されている。中学3年生になった気分NHK韓国語講座、中国語講座を聞かれています。

**「一日に一つでも新しいことを知ることは生きている喜びです」**

「一日一知」一日に中国語の一フレーズを覚える。これが日課だそうです。その覚え方がすさまじい。寝床で復唱できなかつたら起き出してノートを見て唱える。朝方起きるときも唱える。覚えていなかったらまたノートを見て繰り返し唱えてみる。こうやって外国語は覚えるそうです。

「常識を打ち破るところに人間の生きがいがあります。百歳でも勉強する。中学3年生のような気持ちを持って勉強する。毎日が勉強です。人間、前進しなければこれを『老いる』という」まさに昇地先生は「老い方知らず」の方です。

「人生は挑戦であり戦いだ」「挑戦して勝つ喜びが人生の喜び。自分の怠け心に挑戦して、自分の目標とする方向に、自分自身を高めていくところに生きがいがある」100歳を戦い抜き、いまなお高い志、強い使命感を持って生き抜いておられる昇地先生の言葉です。

挑戦、克己心なくして人間的成長なし。肝に命じたいと思います。